

世界の「貧しい」を半分に。MDGs2015 キャンペーン
スペシャルウェブサイト内 Twitter にコメントを
寄せてくださった方



紺野美沙子さん (UNDP 親善大使)

女優。1998年10月に親善大使に就任。これまでにカンボジア(1999、2007)、パレスチナ(2000)、ブータン(2001)、ガーナ(2003)、東ティモール(2004)、ベトナム(2005)、モンゴル(2006)やタンザニア(2008)と8カ国を9回公式訪問し、開発援助の現場を視察して草の根の視点に立った開発援助のあり方を考察している。TVやラジオへの出演、新聞・雑誌のインタビュー、執筆活動や講演を通じて開発援助の必要性和UNDPの活動について積極的に広報活動を展開している。2008年には自ら東ティモールにおける環境保護、貧困削減のための植林プロジェクトに資金協力をおこなう。

1979年映画「黄金のパートナー」で映画デビュー。NHK連続テレビ小説「虹を織る」主演。テレビ・映画・舞台に活躍する一方、著作活動も行い、95年、サイエンスエッセイ「空飛ぶホタテ」で日本文芸大賞女流文学賞受賞。99年、育児エッセイ「『怪獣』のそだてかた」など出版多数。2003年には映画「阿修羅のごとく」「母のいる場所」出演、さらに2008年6月の「オットーと呼ばれる日本人」、2010年1月「細雪」など多数の舞台に出演。2010年4月からはNHK教育テレビの「ギフト～E名言の世界～」に出演している。

2008年5月には国連開発計画 (UNDP) 親善大使としての10年間の活動を綴った「ララ親善大使」を出版した。平成21年度の外務省外務大臣表彰受賞。

紺野さんのメッセージ

途上国に暮らす人々はよりよい生活のために、貧困や病気、環境悪化などの困難に対して真摯に取り組んでいます。今回のMDGsキャンペーンを通じ日本の多くの人々が地球規模の課題に関心を持ち、行動を起こしていくことに期待しています。UNDP 親善大使紺野美沙子

